

第4回セミナー

7月12日、日本で一番暑い町と言われた岐阜県多治見市で、チームネクスト正式発足後の初めての見学＆合宿セミナーが行われた。今回のセミナーのテーマは「新しい市場としての乗合タクシー」であり、副題として「デマンド交通の立ち上げ方」として、多治見市の岩村龍一社長と愛知県小牧市のあおい交通株式会社の松浦秀則社長の、ダブル講演



が行われた。青森から熊本まで、全国からチームネクスト会員28人が参加された。そして、セミナー＆「古虎溪よぶくるバス」見学と懇親会が7時間にかけて行われ、タクシー事業者の進むべき方向について、思いを巡らした。事務局として参加した清野にとっても、大変意義深い時間であった。

社会企業家として

実は岩村社長、弊社システムオリジンの顧客でもあり、弊社の社内報にも登場して頂いたり、また弊社の経営支援事業部の講師陣の御一人として名を連ねて頂いており、過去何回もお話を聞いているのにも関わらず、その志の高さとビジネスモデルの斬新さを、自分は今まで本当には理解しきれていなかった。今回、漸くそれに少し気付く事が出来た気がする。多分地方の小都市のタクシー事業者が、これからの時代に生き残るために必要される志とビジョン、ビジネスモデルと具体的なノウハウが、すべて

清野吉光氏のコラム 第56回

団塊 耕 志 録



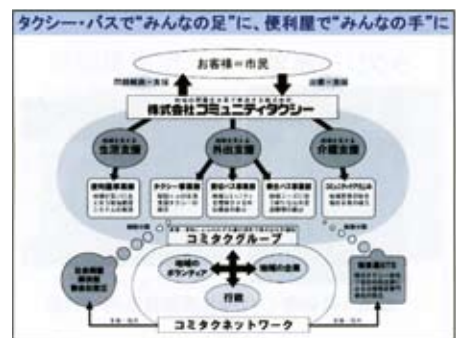
「志の力」

清野 吉光(きよの よしみつ) 略歴

1950年 長野県四賀村生まれ、松本深志高校卒業。1968年上智大学外国学部ロシア語科入学、1971年 中退。その後印刷関係など様々な職業に従事。1976年清水市の日の丸交通入社。1980年静岡市内の事務機器センターに入社。1982年システムオリジンを仲間と創業、専務取締役。1992年代表取締役社長就任。2000年㈱タクシーサイト創立、現取締役会長。2007年タクシーアシスト代表取締役社長に新任。現在に至る。

提示されているのではないかとと思う。今回のセミナーの岩村社長のレジュメ「公共交通と生活支援企業について」タクシー事業者が進むひとつの方向は、地方のタクシー事業者が繰り返し、読み返し、実践し、検証すべきバイブルになるのではないかと思う。少なくとも自分は、そのように使わせて貰いたい。

まず志の部分！岩村社長の会社、株式会社コミュニティタクシーは平成15年に設立された、所謂新免の会社ではあるが、その設立趣旨が、「社会的課題をビジネスで解決するコミュニティビジネス(社会企業)」として、したがって多治見市民の「市民タクシー構想」の下、市内の意識高い市民40名からの出資を受け、新しい「みんなの足」を作らねば！という志の下に設立されている。結果経済産業省の「ソーシャルビジネス五選」受賞、また中小企業庁の「JVA2006地域貢献賞」を受賞している。こうした生い立ちであるが故に「タクシー・バスで」みんなの



足に、便利屋で、みんなの手に」というビジョンが生まれ、そしてタクシーの枠組みに収まらない「総合生活移動産業」の構図(写真参照)が構想され、その実現を地域ボランティア(住民)、地域の企業、そして行政と連携しながら作り上げて行くという、運動体としての株式会社コミュニティタクシーがある。従来のタクシーが儲からないから、バス事業、便利屋事業をすすめるのではなく、地域の移動及び生活のニーズを解決するために必要な手段として、タクシー事業、バス事業、便利屋事業を行う。結果同じではないかと言われるそうだが、目的をどこにおくか

によって、事業の展開や広がりが大変違ってくる。岩村社長の豊かなアイデアや様々な障害の突破力、行政や地域住民との交渉、調整力は、やはりこの志の部分から生まれ出てくる物だと思ふ。社会企業家と称される所以である。また新しいビジネスモデル創造の為に、このような社会的意義なくして、人々の共感と協力を得られず、その実現成就是難しいと思われる。世によくあるように、私心はあつても良いが、それが先行すると如何に目新しいビジネスモデルではあつても、一時的には成功しても、永続は難しい。社会企業家たる事は結構、難しくもある。

岩村社長のアドバイス

では、岩村社長が多治見市で、具体的にどんなビジネスモデルを作り上げたか？詳しくはこのタクシージャパンで特集されている（筈？）なので、そちらを参考にして頂きたいが、結論的に言うと「補助金なし



の自律型乗合事業のしくみをつくりあげた事である。地域の実情に即して「トライアングルバス」という買い物、通院のバスと「よぶくるバス」という古虎溪という無人駅への通勤、通学バスをうまく組み合わせ、その実現の為に、行政、地域住民との連携を基に、自律型乗合事業を実現した。そうした経験を下に、岩村社長がタクシー事業者、とりわけ地方のタクシー事業者（因みに多治見市は人口12万の日本に普通にある地方都市のひとつである）への「ひとつの方向としてのおすすすめ（アドバイス）」を列挙すると、

- ① デマンド交通は流行の兆し
- ② 成功事例ナシ、専門家に在の分野
- ③ 新たなビジネスの可能性
- ④ できれば、貸し切りバスの許可を取る
- ⑤ 企画書を書けるようにする
- ⑥ 行政とうまくつきあう

以上のアドバイスの詳細は、是非岩村社長の講演を直接聞く機会を御持ち頂き、お確かめ頂きたい。

総合旅客事業者へ

岩村社長と、ある意味対極にある小牧市の老舗タクシー会社の松浦社長の講演も、我々、とりわけ2代目、3代目のタクシー会社後継者に勇気を与えてくれた。弁護士志望だった松浦社長は、創業者であるお父様の急逝で、半ば本意な事情で後継者となった。様々なタクシー事業の厳しい現場を経験する中で、タクシー経営に嫌気も感じた時期もあった。しかし、2代目で

あるが故に、事業をやめる事も躊躇され、なんとか頑張っている中で、貸切バス、路線バスへの進出の機会が巡ってくる。タクシーの營收の低下が乗務員さんの給与へのシワ寄せと成っている事に本意さを感じていた松浦社長は、大きなリスクを引き受け、固定給を保証できるバス事業への取り組みを決断し、今では70台を超えるバスを運行、また「ミゴン」など乗合ジャンボタクシーやオンデマンドタクシーに取り組んでいる。お客様と乗務員の為にという気持ちでバネに、タクシー事業者から総合旅客事業者への転換をなしたとげた。これまた松浦社長の志の力故であると思う。

(2013年7月23日記)



スマホでタクシー呼んだらタクチャージで充電

docomo, au, SoftBankの各種携帯電話・スマートフォン・タブレットに対応
iPhone 3G・4S・5, iPad mini, iPad, iPod touch・nano

（販売元）
株式会社システムオリジン
03-3834-8352

TAXCHARGE

対応機種

タクチャー
タクシー専用
スマートフォンの
携帯の充電器